

三重県科学技術振興センターとの連携による包括協定

本学は3月23日、三重県科学技術振興センターとの間で包括協定を締結しました。調印式は三翠会館で豊田学長、高橋三重県科学技術振興センター所長をはじめ関係者16名が出席し執り行いました。今後は、三重県の地域社会の持続的な更なる発展と県内産業の振興、そして県民生活の安全性・快適性の向上に資するための連携をより一層強化することとなります。



「読売東海医学賞」を受賞

医学系研究科医動物感染医学分野の鎮西康雄教授が、「マラリア感染の分子機構の研究」で読売新聞の第17回東海医学賞を受賞し、3月13日に名古屋市内で授賞式が行われました。マラリアは日本では絶滅しましたが、今なお世界各地で数億人が感染し数百万人が死亡する第一級の感染症です。鎮西教授等の研究は、独創的な方法により、マラリア原虫が最初に感染する肝臓への接着や侵入など感染に関わる分子を明らかにしたもので、これらの研究を基盤としてマラリアワクチンの開発に取り組むなど、国際的にも高いレベルの研究を展開していることが評価されました。

「個人情報保護に関する講演会」

3月1日・5日、共通教育校舎190番教室において「大学における個人情報保護のあり方 ～法施行後のこの2年を振り返りつつ～」と題した標記講演会が南山大学総合政策学部 豊島明子助教授を講師に招き開催されました。講演会では、始めに、法施行の趣旨の解説があり、続いて施行直後の混乱、現在の運用上の諸問題など過去2年間に起きた事例を織り交ぜたわかりやすい内容に、出席した200名を超える教職員は、改めて個人情報の取扱の大切さを感じ、熱心に耳を傾けていました。

「学生総合支援センター講演会～学生への初期対応について～個性と役割を生かす～」

3月8日、メディアホールにおいて、東京工業大学保健管理センターの齋藤憲司助教授（カウンセラー）を講師に招き、標記講演会を開催しました。この講演会は、学生相談・学生対応窓口等に携わる教職員を対象に行われたもので、学生の修学、就職、生活、健康等の相談に適切な指導・助言を行うため、講師の経験に基づいた初期対応のあり方や、＜自己点検「気質」シート＞による自己点検等が行われ、盛会のうちに終了しました。当日は教職員およびピアサポーターの学生ならびに県下各大学から関係教職員併せて79名の参加があり、関心の高さが伺われました。

「バイオ・メディカル創業プログラム修了認定のための審査会」を開催

3月8日、文部科学省の「平成17年度派遣型高度人材育成協同プラン採択事業バイオ・メディカル創業プログラム」における報告審査会が、協力をいただいた4社の企業ならびに三重県庁関係者の方を招き、山田理事、駒田医学系研究科長ら本プログラム運営委員会メンバーが出席し、開催されました。審査会は2年間の成果発表の後、企業関係者からの質疑に答える形式で行われたもので、2名の修了候補者（医学系研究科修士課程2年の梅本紀子さん、大村佳之さん）は、無事修了の判定をいただきました。また、本年度から参加している2名の学生（同1年上野友介さん、長井佑典さん）の中間報告も行われました。

教育改善のための国際シンポジウム・ワークショップ「ポートフォリオ評価の方法論」を開催

3月16日-17日の両日、高等教育創造開発センターと大学院医学系研究科の共催で、ポートフォリオ評価で国際的に著名なMargery Davis氏（英国ダンディ大学医学教育センター長）とHelen Barrett氏（元アラスカ大学助教授）を招聘し、標記国際シンポジウムとワークショップを開催しました。これは、学生の能動的な学習を促し、表面的な知識だけでなく、深い思考と問題解決力を評価する方法を学ぶ機会の提供として開催されているものです。学内外の大学教員や医師ら60名がシンポジウムに、31名がワークショップに参加しました。参加者からは実践的な内容に大変有意義であったとの感想が寄せられました。

「平成18年度三重大学教育G P 成果報告会」

3月20日に豊田学長、山田教育担当理事および教育機構委員の出席のもとに標記報告会が開催されました。本学の教育G P 事業は、学内のさまざまな創意に溢れ特色ある教育の取り組みを選定し支援することによって、三重大学の教育の活性化を図るものです。当日は、今年度採択された、大西香代子助教授・医学部、中川正教授・人文学部、岡野昇助教授・教育学部、林照峯教授・工学研究科、井口靖教授・人文社会科学研究科長、磯田憲一助教授・医学部の6人が1年間の取り組みの成果を発表しました。会場からは今後の発展が期待される取り組みが生まれているとの意見がありました。

「第2回 地域メディアに関する」公開研究会を開催

3月23日、メディアホールにおいて標記公開研究会（進行：川口淳助教授・災害対策プロジェクト室）が学術情報ポータルセンターと(社)三重県情報通信基盤整備協会の共催で行われました。はじめに、「防災と地域メディア」というテーマで隈本邦彦特任教授・北海道大学の基調講演があり、その後、災害発生後のメディア報道の在り方や防災分野の取り組みから見てきた県内メディアの特徴や課題について、県や市の防災担当者企業、住民に加えNHKなどのメディア関係者約40名による活発な意見交換が行われました。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。電岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (http://www.mie-u.ac.jp) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾

目次

- 平成19年度から発足する新体制 - 新組織理事挨拶・学長補佐紹介 -
● 「学生総合支援センター講演会～学生への初期対応について～個性と役割を生かす～」
● 「バイオ・メディカル創業プログラム修了認定のための審査会」を開催
● 教育改善のための国際シンポジウム・ワークショップ「ポートフォリオ評価の方法論」を開催
● 「平成18年度三重大学教育G P 成果報告会」
● 「第2回 地域メディアに関する」公開研究会を開催

平成19年度から発足する新体制

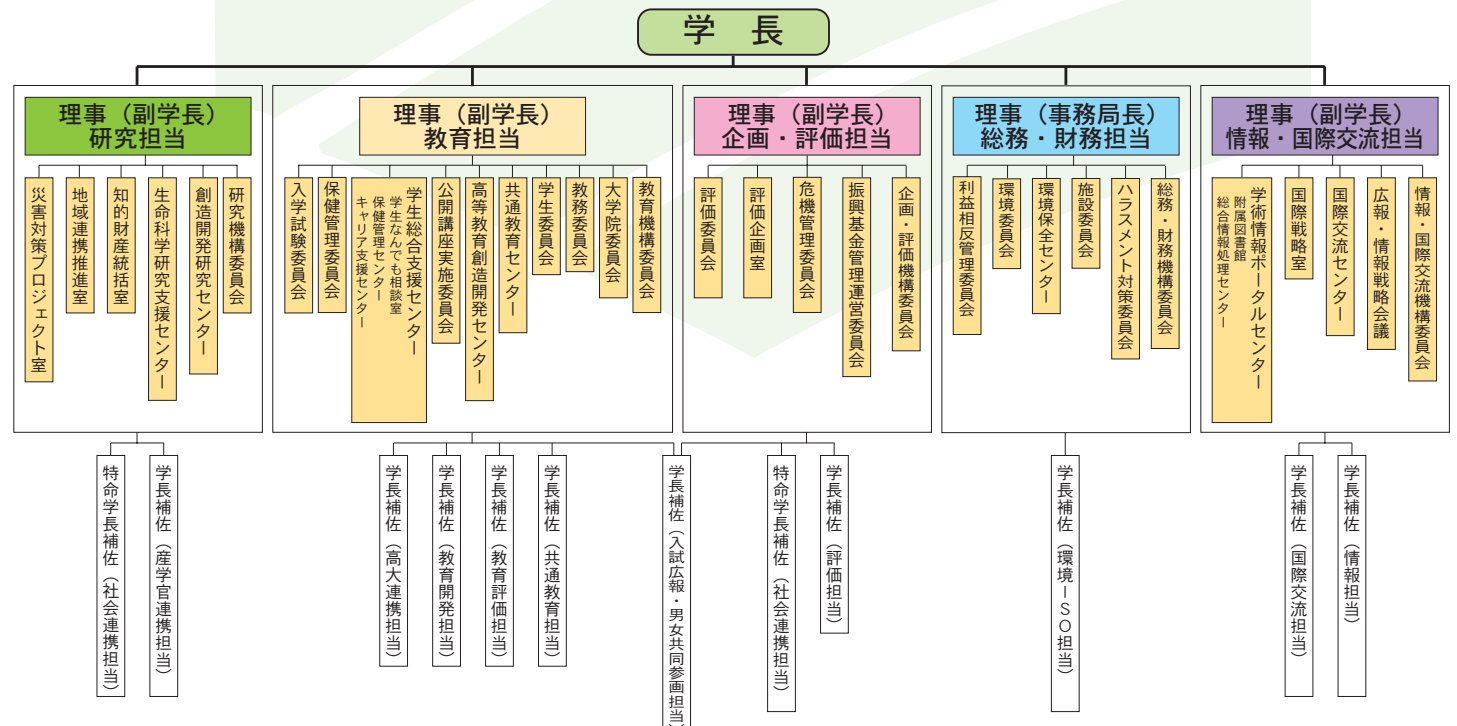


学長を囲む新体制

平成19年4月1日より豊田長康学長率いる執行部が新しい体制となります。豊田学長はじめ理事予定者にご挨拶と抱負をいただくとともに学長補佐予定者をご紹介いたします。

「平成16年の法人化開始から3年が経過しましたが、一つの節目として、平成19年度から全学執行部を新しい体制とさせていただきます。新しい理事の方々には、経験の豊富な人材とともに、特に若手の優秀な人材を登用し、また、他の大学に比較して、全学執行部の補佐体制が不十分であると考えられたため、学長補佐の数を増やして学長や理事の補佐体制を充実いたしました。平成19年は大学認証評価を受審し、平成20年には国立大学法人評価を受けることになっており、まさに、三重大学にとって今中期の正念場を迎えます。今後2年間、この体制で運営をさせていただきますので、ご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。これまでの3年間ご協力頂きました前理事の皆様には法人化の荒波の中で私を支えていただき、心から感謝申し上げます。」

豊田 長康





新組織理事挨拶

企画・評価部門



東 普次教授

『平成19年度・20年度と続く認証評価・法人評価が、任期2年の間に対応しなければならない重い課題で、他の理事との協同により、これまでの3年間の成果を更に確かなものにつつ、高い評価を獲得することが最も重要な任務です。そのためには、目標チャレンジ活動の推進を通じて、構成員の意欲を増進させる職場環境の形成に力を注がなければならず、部局間の良好な協力関係を構築することも必要です。また、新規企画によって、地域住民・自治体・県内諸大学との連携活動を一層推進すると共に、卒業生の方々にも三重大学と深く関わりをもち、三重大学を支援していただけるような仕組みを是非作りたいと考えております。よろしくお願いいたします。』

教育部門

『大学にとって直接的な顧客は学生ですが、学生を受け入れる社会も重要な顧客です。社会からすれば、学生の修学達成度が重要な指標でしょう。修学達成度を上げるには、学習時間の保証や厳格な評価など、短期的には学生にとって苦い薬も必要です。教育には、高大連携事業、入試から入学後の共通教育、学部専門教育、大学院教育、さらには修学・生活・健康・就職支援まで、さまざまな要素が含まれ、いずれも一筋縄ではいきません。しかし、学生や社会の満足を得ることは大学の目標であると同時に、達成感を味わうことのできる教員の醍醐味と思えます。この目標の達成に向け、皆様にはどうぞよろしくご協力お願い申し上げます。』



野村由司彦教授

研究部門



奥村克純教授

『三重大学の研究の実力が正しく評価され認められるよう努力すること、三重大学の研究の自力をさらに高めるために、皆様に落ち着いて研究していただけるよう研究環境を少しでもよくする努力をすること、そのために大学院の充実や人的支援、事務的支援を含めたサポート体制を充実させることなどが、私の使命と考えています。皆様とのコミュニケーションを大切に、学内だけでなく学外からも意見を求め、個々で培われた研究を戦略的に生かす工夫をして、微力ながら三重大学の名を上げるために尽くしたいと思います。ひとりでは何もできません。若さでのびのび取り組み、皆様と共に進めたいと考えていますのでご支援をお願い申し上げます。』

総務・財務部門

『従来の財務の仕事に加え、新たに総務の仕事を担当することになりました。総務関係では、新しい人事評価制度の定着や業務の合理化を進め、活力のある職場をめざしたいと思えます。財務面では、経費の節減は図っていかねばなりません。必要な予算の獲得、病院再開発をはじめとする施設の整備・改修、環境ISOの認証取得など、教職員の皆様の教育研究活動のため、条件整備に努めていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。』



三浦春政理事  
事務局長

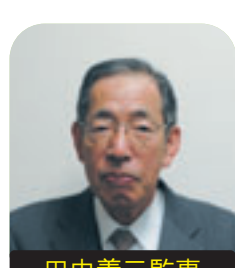
国際交流・情報・広報部門



小林英雄教授

『法人化後、三重大学の情報・国際戦略を具現化することを目的として、大学の情報拠点として機能する学術情報ポータルセンターと国際交流の総合的な支援拠点として機能する国際交流センターが整備されました。今後は、これらの仕組みを利用して、教育・研究・社会連携・国際交流を更に推進するための各種情報システムの整備とコンテンツの充実が最重要課題と考えています。また、学外に向けた戦略的な広報活動および学内情報の共有化は、本学の教育・研究活動、社会貢献への取り組みを伝えると共に、透明性のある開かれた三重大学を実現する上で極めて重要と考えています。ご協力お願い申し上げます。』

監事



田中義三監事

『早いもので昨年4月から業務監事を担当してから1年経ちました。三重大学が社会からますます信頼される大学になる様、少しでも役立てたらと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。』



伊藤哲監事

『監事として4年目に入ります。今までに何か貢献できたか反省することしきりですが、これからも外部の目で意見を申し上げることができればと考えております。各部署におかれましては忌憚ない意見をお聞かせいただく等ご協力賜りますようお願い申し上げます。』

学長補佐(担当)



小川真里子教授  
(試験・異文化理解)



中川 正教授  
(共通教育)



朴 憲淑教授  
(環境ISO)



奥村晴彦教授  
(情報)



廣岡秀一教授  
(教育評価)



津田 司教授  
(教育開発)



鶴岡信治教授  
(産学官連携)



畑中重光教授  
(評価)



石田正昭教授  
(高大連携)



後藤正和教授  
(国際交流)

特命学長補佐(担当)



加藤征三教授  
(社会連携)



渡邊悌爾理事  
(社会連携)

理事退任挨拶

平成16年度の法人開始よりご尽力いただき、この度退任されます理事よりご挨拶をいただきました。



渡邊悌爾理事  
(総務・企画・評価担当)

『第一に、総務担当分野では、非公務員型の人事管理体制の遂行、就業規則等に関する過半数代表者および教職員組合との折衝や調整、教職員の労働安全管理体制の構築と管理運営に努めてきました。また、中期計画期間での人員人件費管理についても、効率化と政府の総人件費削減への対応にも一定の目途が立ちました。第二に、企画分野では、三重大学振興基金の創設、環境ISO14001認証取得の体制を構築、同時に法定義務により作成・公表した環境報告書が優秀賞を授与されたのは望外の喜びです。第三に、評価分野では、自己点検評価が着実な改善に結びつくためのPDCAマネジメントサイクルを回す仕組みを構築することができました。今後は、19年度の認証評価、20年度の法人評価が大学の将来を左右する最大の課題ですが、全学教職員の皆様の一致団結により乗り越えて頂きたいと思えます。長い間お世話になり、ありがとうございました。』



山田康彦理事  
(教育担当)

『教育担当理事・副学長としての3年間は、学部と大学院の教育のあらゆる面において、何とか法人評価に耐えうる全学的体制を構築することにもっとも力を注いだように思います。その推進のために、高等教育創造開発センター、共通教育センター、キャリア支援センター、学生総合支援センターを立ち上げました。そして、PBL教育の開発と展開、eラーニングの促進、実践外国語教育の開始、電子シラバス・成績評価基準・授業評価の全学的整備、アドミッションポリシーの作成と入試広報の展開、高大連携の推進、教育満足度調査等各種教育調査の実施などを進めました。これらの諸施策は全学の教職員の皆様のご協力やご支援によって実現しました。退任にあたり、改めて感謝申し上げます。』



森野捷輔理事  
(研究担当)

『3年前に研究担当副学長に任命された際、「25年先までを見据えて研究の道筋をつけておきたい」という主旨の抱負をウェブ三重大に書かせて頂いたものの、実現できず、まことに汗顔の至りであります。任期中にこれだけとは取り組んだ世界的研究拠点形成・文理融合型大学院設立・科学研究費補助金増強の3大目標はどれも達成されず、構成員の皆様には伏してお詫びしても足りない気持ちであります。3年間頂いたご協力に感謝申し上げますとともに、皆様方のご健勝・ご活躍、そして三重大学の更なるご発展をお祈りして退任のご挨拶といたします。長い間ありがとうございました。』



亀岡孝治理事  
(情報・国際交流担当)

『国立大学法人化から3年、情報・国際・広報担当として教育・研究周りの整備を中心に頑張ってきました。情報関連では、電子ジャーナルを全学共通経費化、ICカード型身分証明書・学生証を導入、2006年には学術情報ポータルセンターを立ち上げ機関リポジトリ「MIUSE」のサービスを開始しました。またキャンパス無線LANの整備も順調に進んでいます。国際交流では、国際交流戦略一元化のために国際交流センターを立ち上げました。広報関連では、「三重大X」の創刊、そして今年3月CMSベースの大学ホームページを構築しました。後は小林理事に託したいと思えます。3年間本当にありがとうございました。』